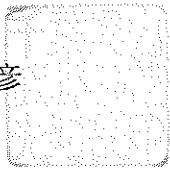


横都第 533 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

千葉県山武郡横芝光町長 佐藤 晴彦



今後の道路行政についての意見・提案について(回答)

平成 20 年 9 月 20 日付け国道企第 37 号で依頼のあったことについては、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政について意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ・本町を横断し、広域的な高規格幹線道路である圏央道(横芝～大栄間)の早期完成を要望する。
- ・地域高規格道路である鉢子連絡道路(二期)の早期完成と残る区間の早期事業化を要望する。
- ・財政力の乏しい町村にとっては、大規模な橋梁新設等の整備は、一時的な大きな財政支出が伴うため、通常の交付金に加え地方債の起債を認めるべきである。
- ・これまでとおりに地方に配分される道路特定財源分の確保を要望する。
- ・割高感のある高速及び有料道路の通行料金については、割引の拡大や引き下げを図るべきである。ただし、特に平面交差の無い高速及び有料道路は、一般道より高い便益性(時間短縮、走行費用低減、交通事故減少)があるため、区別を図るうえでも通行料金の無料化には賛成しかねる。

様式①

千葉県横芝光町

今後の道路行政について意見・提案
②－1 地域の現状と抱える課題

様式②
千葉県横芝光町

○現状
・横芝光町の幹線道路網は、東西に横断する国道126号を中心とした県道、幹線町道、広域農道で構成されており、広域幹線道路として鎌子連絡道路が平成18年3月に開通し、さらに匝瑳市までの延伸や圏央道（横芝～大栄間）の整備も予定されています。

○課題
・栗山川が南北に縦断して町を東西に分断していることから、町の一體感を醸成するためにも、東西方向の道路整備が急務となっています。
・幹線道路以外の生活道路については、舗装率は72%程度にあるものの、改良率は50%に満たない状況にあることから、地域の実情を勘案しながら計画的な整備を進め、道路環境の向上を図るものが求められます。また、わたりやすく個性ある案内標識の設置、高齢者、障害者、子どもなどの利用に配慮した道路整備、道路照明灯による安全で快適な道路環境づくりが求められています。

今後の道路行政について意見・提案

②ー2地域の目指すべき将来像

・栗山川は、古くから生活・産業の両面で、この周辺に暮らす人々の暮らしの基盤を支え、横芝光町(平成18年3月に二町が合併)の誕生によって町の中心となつた。私たちは、人の往来や物の流れの源であつた川を一体化の象徴として、住民一人ひとりが協力し合い、この町資源である豊かな自然や文化を守り、活かしながら、新たな人の交流やにぎわいを創り、育していくまちの姿にすることである。

様式③

千葉県横芝光町

今後の道路行政について意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

千葉県横芝光町			
○重点事項		○代表事例 栗山川架橋事業(2橋のうち、1橋は架け換え)	
○地域活力の向上		○期待する効果や評価等 ・町の道路ネットワークの構築、市民の一体感の醸成、地域間アクセスの向上による交流の促進、老朽橋の解消による交通環境の充実が図られる。	
○その他			

様式④